

新年 賀 謹



冬の大山



よなび

第628号
令和8年1月発行
電子版第85号

「地域と共に」

年頭の挨拶

第八普通科連隊長兼米子駐屯地司令



一等陸佐 中尾 圭介

新年明けましておめでとう
ございます。
隊員のご家族の皆様、日頃
からご支援・ご協力をいただ
いている駐屯地部隊協力を
はじめとする協力諸団体の皆
様、並びに地域の皆様におか
れましては、輝かしい新年を
お迎えのことと心よりお慶び
申し上げます。

つづ成長してまいりました。
現在、我が国を取り巻く安全
保障環境は、戦後最も厳しく複
雑になっており、また気候変動
等の影響により大規模な自然
災害が常態化しております。
このような中、我々が真の
實力を発揮するためには、自
治体や協力諸団体をはじめ、
地域の皆様のご理解とご協力
が必要不可欠です。このため、
駐屯地として「また来たい米
子駐屯地」をビジョンに掲げ、
各種イベントを通じて皆様と
の良好な関係の維持・向上に
努めているところであります。昨
年は、駐屯地の主力部隊である
第八普通科連隊の隊務の都合
により、例年秋頃に実施して
いる駐屯地創設七十五周年記
念行事を十二月に開催いたし
ましたが、寒い時期にもかか
わらず、多数の方に来場いた
だきました。改めて、駐屯地
が皆様に支えられていること
を実感した次第です。
さて、本年の干支は、丙午
（ひのえうま）です。丙午は、六十年に一度
巡ってくると言われており、十
千の三番目で「火」の要素を持
つ「丙」^{ひのえ}と、干支の一つで古来
より生活の要である「午」が組
み合わさったものです。丙午
の年は「情熱と行動力で突き進
む」「燃えるようなエネルギー
で道を切り開く」年になると
考えられています。同時に、
天災が多い年とも言われてお
り、災害の被害を軽減するた
めに日頃から「自助」「共助」
、「公助」を高めることが一層重
要であると認識しております。
我々自衛官は「事に臨んで
は危険を顧みず、身をもって
責務の完遂に努め、もって国
民の負託にこたえること」を
誓っており、いざという時は
自己の安全や家族よりも任務
を優先しなければなりません。
このため、我々自身こそが日
頃から家族を含めた「自助」を
見直すとともに、この丙午の
年にちなみ、「情熱と行動力」を
もって自らの任務遂行能力を
高め、諸先輩方が築いてこら
れた伝統を継承して地域と共
にある駐屯地として精進する
所存です。
また、本年も、例年通り、
春には「駐屯地さくら祭り」、
夏には「サマーフェスタ」、秋
には「駐屯地創設記念行事」を
開催し、駐屯地を一般開放す
る予定です。是非とも駐屯地
に足を運んでいただき、隊員
たちと直接触れ合っていただ
ければ幸いです。

新年のあいさつ

米子駐屯地部隊協会

会長 青砥 隆志



隊員ならびにご家族の皆
様、明けましておめでとうご
ざいます。
新しい年を迎え、皆様のご
健康とご多幸をお祈り申し上
げます。
米子駐屯地は、着任二年目

を迎えられた中尾司令をはじ
め、歴代駐屯地司令のもと、
厳しい訓練を通じて精強な部
隊を築き上げることに尽力さ
れ、国民の生命と安全を守る
という崇高な任務を遂行され
ていることに深く敬意を表し
ます。

さて、今日の国際情勢等を
見てみますと、長期化してお
りますウクライナ情勢、中東
における紛争、中国の海洋進
出など、これまで以上に何が

起こってもおかしくない不安
定かつ緊迫した状況となつて
おり、我が国を取り巻く安全
保障環境も厳しさを増してい
ております。
このような状況下において
自衛隊に求められる任務や役
割は自国の防衛だけでなく、
国際的な平和協力活動や大規
模災害への派遣など多様なも
のとなっておりますが、任務
の重要性を認識され精進され
ますことを願っています。

米子駐屯地隊におかれまし
ては日頃の活動はもとより、
県内中学生、高校生への職場
体験学習の受入れ、大山での
一斉清掃ボランティア、各種
交流イベントの開催、米子
がいな祭への参加など、地域へ
の支援協力を積極的に実施さ
れましたことにもあらためて
お礼申し上げます。
国の防衛には国民の皆様
の益々のご理解とご支援が不
可欠であり、私も協会の皆
様の皆様に自衛隊に対する幅
広い理解と更なるご支援を一
層賜うために、引き続き努力
を続けたいと考えておりま
す。



米子駐屯地は、着任二年目

本部管理中隊空路潜入訓練

十二月上旬、本部管理中隊が米子駐屯地においてリペリングによる空路潜入訓練を行った。リペリングとはホバリング中のヘリからロープとカラビナを用いて地上へ卸す方法である。普段は主にレンジャー隊員がメインで訓練を行っているが今回はレンジャー隊員以外をメインとして訓練を実施した。今回については始めてリペリ



訓練塔から卸下



実機から卸す瞬間

米子市二十歳を祝う会記念感想文



「自衛隊生活」
本部管理中隊 山本 蒼舞

私は、今年で二十歳になりました。長いようで短い二十三年間でした。中学、高校では部活動に専念していました。高校三年の時進路選択で何をしようか決まっておらず悩んでいました。学校の先生や鳥取地方協力本部の方から自衛隊の事を詳しく教えて頂きました。その時聞いた話を選択肢の一つとして考えた結果、自衛隊への入隊を決め今に至ります。

自衛隊に入隊し、新隊員の頃は今まで両親に任せっきりだった洗濯、アイロンなど様々な事が初めてで上手くいきませんでした。アイロン掛けをしても多くのシワが残ります。上手く上げられず時間も掛かり苦労していました。今では綺麗に仕上げる事が出来るようになり先輩方からしっかりと手入れ出来ているなど言われます。また一人で生活する上で必要な家事もこなせるようになり、両親の苦労を理解しました。新隊員教育隊で日々教育して頂いている事は自分

でも気づかないうちに自らの成長に繋がっているのだと感じました。新隊員教育を終え一般部隊へ配置された当初は不安しかありませんでした。特に私は人見知りの性格で周囲の人とコミュニケーションをとるのが苦手です。共同生活を送るのになかなか慣れず両親に相談した事もありました。しかし先輩方と日々訓練をしたリ、食事をしたりする事を重ねる中で自然と会話できるようになり笑顔も増えていきました。

今思えば先輩方の優しさや時には厳しい指導を頂いたおかげだと実感しています。また自衛官として生活する上で意識しているのは即応態勢を維持する事です。物心両面の準備には特に心掛けており、有事が起こった際には素早く対応出来るようにしています。自衛隊に入隊して二年が経ちこの二年で大きく成長を感じることが二つあります。一つ目は自衛官としての忍耐力です。何も分からず初めて参加した訓練で長期間屋外にて雨や寒さに耐えながら任務達成する事の辛さや厳しさを感じ心が折れそうな時もありました。しかし、先輩方の背中をみて自分も頑張ろうと思いつつ過去の自分だったら諦めていたような場面でもやり切る事を教わり、忍耐力が付いてきていると感じました。二つ



「二十歳の抱負」
第一中隊 矢田 心響

私の二十歳の目標は、強い人間になるということです。

目は積極性です。新隊員教育の頃は人前に出て積極的に発言する事はありませんでしたが、先輩方と日々共同生活する中で私の事を認めてもらえる様な環境作りをして頂きました。自主的に行動出来る様になると共に、自分の気持ちに素直になって会話出来るようになりました。自分の気持ちを言葉にして話したりする事が苦手だった私には大きな成長を感じる部分です。このように今の自分が有るのは家族が自衛隊への理解があり支えてもらっている事や、先輩方が仕事をやりやすい環境に整えてくださっているおかげだと実感しています。

自衛隊という厳しい仕事ですが、やりがいも感じており毎日が充実しています。まだまだ未熟な部分が多いですが、自分の長所を磨き短所を改善することで人として自衛官として成長出来ると思っています。自衛隊に入隊して良かったと思っています。

二十歳という節目の年を迎え、私は今、新しい命を授かっています。これまでの人生は自分自身のために選択を重ねてきましたが、これからはお腹の中にある小さな命とともに歩む人生が始まります。不安もたくさんありますが、それ以上に「守りたい」「育てたい」という強い気持ちが芽生えています。

この一年の抱負は、母として、そしてひとりの大人として責任を持って生きる事です。

その中で、妊娠や出産は決して簡単なことではなく、大きな覚悟と準備が必要だと理解しています。それでも、母として子どもと向き合い、共に成長していく未来を思うと、心から楽しみであり、私の人生の大きな夢でもあります。

二十歳の一年は、母になるための心の準備や生活の基盤を整え、家庭を築く第一歩にしたいです。愛情をもって家族を大切に、安心できる温かい環境をつくりながら、自分自身も成長を重ねていきます。新しい命を迎えることで、さらに強く優しい人間へと成長できるよう、日々を大切に過ごしていきたいです。

私は、現在陸上自衛隊米子駐屯地で勤務しています。

また、自衛官として自覚と責任感を持って国民の平和と繁栄に責務を果たしていきたい、私が目指す理想の自衛官になれるよう、日々精進していきます。

米子市二十歳を祝う会記念感想文



「感謝」
第二中隊 末信 竜之介

二十歳という節目を迎えるにあたり、これまでの人生を振り返ると改めて周りの方々のおかげで今の自分があると感じており、感謝してもし切れない程です。

何よりも、両親への感謝です。私のために叱ってくれたり、褒めてくれたり、色々なことを教えてくれた両親には頭が上がりません。そんな両親と妹と4人で過ごせた何気ない日常が私自身にとって最大の宝物です。本当にありがとうございます。

また、家族以外にも感謝を伝えたいです。学校の先生方は、勉強だけでなく、人としての大切な姿勢までも教えて下さいました。友人とは、学校生活で時に衝突したり、楽しくふざけ合ったり、部活動では苦しい練習を共に乗り越え、切磋琢磨した仲間など、ずっとこの人と一緒にいたい、この時間がずっと続けば良いと思わせてくれるような人ばかりで本当に幸せな学生時代であったと思います。

そして、地域や社会の人々にも感謝を伝えたいです。安心して学べたり、生活を送ることが出来たりと、そんな普

通の毎日は、目に見えないところで社会の方々に支えられていたからこそ、あったものだと感じます。

そして次は私たちが陰ながら支えていく番だと思います。高校を卒業し、中学生の頃からの夢であった自衛隊に入隊し、二年が経ちました。国民の方々が安心して日々の生活を送ることが出来るよう、一生懸命、訓練に励みたいと思います。

二十歳になるということは、ただ年齢を重ねるだけでなく、新しい自覚や責任が生じるということだと思えます。両親への恩返しや社会貢献、言動一つ一つに注意することや、周囲の人々を支えていくなど、様々なことに気を配り、これからの人生の一日一日を大切に、自覚をもって過ごしていこうと思えます。

感謝とは、心の中で思うだけでなく、相手に伝わってこそ意味があるものです。言葉や行動として表わすことが大切だと思えます。感謝を伝えることでそのコミュニケーションがシシオンであり、絆が生まれるのだと自分は思います。だからこそ、積極的に日々の感謝を「ありがとう」という言葉で相手に伝えることをこれから大切にしていこうと思えます。

二十歳という節目を迎えるにあたり、多くの人の支えがあつてこそ今の自分があると強く実感しています。この感謝を胸に刻み、これからは誰かを支えられる人間として成



「自衛官としての行動」
第三中隊 太田 晃斗

長すると共に、自衛官としても成長していきたい、周りの方々や日本という国の今、そして未来を安心して溢れさせることが出来るよう精進していきたいと思えます。

みなさんも「感謝」という気持ちを忘れることなく、後悔のない人生にするために、一日一日を大切に、共に頑張っていきたいと思います。

私は高校を卒業して、陸上自衛隊に入りました。親の反対を押し切り、入隊したのは弱い自分を変えたかったからです。学生の頃の自分は精神的にも肉体的にも弱く、自分に自信をもてなくて嫌でした。そんな時、自衛隊での教育や、仕事内容が厳しい職場で自分を成長させたいという気持ちから入隊を志願しました。

入隊して現在、厳しい訓練や上下関係、メンタル面などに関して成長できたと思っています。

警戒や地面に穴を手作業で掘り自らを防護する場所を確保したりなど、それこそ、食事をする時間もないこともありませんが、厳しい状況でも、仲間にも厳しい思いをしているから頑張ろうという気持ちになり、次第に精神面や肉体力が強くなったと感じています。

引き続き目標とする上司を追い越せるように筋トレや体力錬成を頑張っていきたいです。

自分が自衛官として何のために戦うか考える時があります。自衛官として日本を守る、国民を救う等、今までこのような事を実感することはありませんでした。有事、災害などが起こらないのが私たちの本望です。

有事の際、すぐに対応できるように日々訓練を実施しています。自分が今勤めている仕事で、家族、彼女、友達を有事や災害から守るために戦っています。

自衛官は常に危険と隣り合わせです。最悪の場合、命を落とす可能性もあります。親はそのようなことを心配し、最初は入隊することに反対していたのだと思います。しかし、今、仕事の事を話すと、「怪我に気をつけて頑張ってください」と応援してくれています。家族の期待に応えるべく仕事を頑張っているのですが、家族が本当に期待しているのは仕事での成功や功績よりもとにかく怪我なく健康でいてほしい、そしていつか地元に戻り

元気な姿をみせてくれとのことでした。

今の自分があるのは、親のおかげです。元気に、そして体は強く、信頼する上司についていきながら頑張りたいです。



「成人の言葉」
第十三後支二整中 神谷 春

高校を卒業して入隊した私は、今日も元気に働いています。入隊してから、早一年が経過しました。まだ、入隊したての私はわからないことも多く、指導されることも多々あります。

しかし、落ち込んでいる暇なんてありません。心配性な私は、将来について考える時ネガティブ思考に陥ってしまいます。「何のために生きているのか」「何のためにお金を稼いでいるのか」答えのない問題に悩んでしまうとなかなか抜けられません。そんなどうしようもない私に真摯に向き合ってくださいる人がいました。

相談に乗ってくださいたり、応援してくださいたり、誕生日にサプライズケーキを買ってきてくださったり。ここまで寄り添ってくれる人がいるなんて考えたことも

ありませんでした。

その人は現在の心の支えであり、憧れであり、目標です。私も誰かに寄り添える人になりたいと思うようになってから、人間関係も良くなってきているような気がします。

いつかしっかりと直接感謝を伝え、恩返しが出来たらうれしいです。

最後に、私が今こうしてやっているのは、やはり一番は家族の支えのおかげです。いつも応援してくれていると思うと頑張れます。これからも、育ててもらった分一生かけて恩返ししていきたいです。

駐屯地 SNS 紹介!

Instagram
YONAGO JGSDF
米子駐屯地 Instagram

facebook
米子駐屯地 facebook

米子駐屯地では、インスタグラムとフェイスブックをしています。地域の皆様と一緒に歩む、私たちの日常をぜひご覧ください！皆様からのフォローといいね♡をお待ちしています！

栄光・表彰

米子市二十歳を祝う会記念感想文 入選
本部管理中隊 陸士長 山本 蒼舞

中四国銃剣道大会 個人戦 準優勝
第二中隊 二等陸曹 井上 仁

定年退官

永年の勤務ご苦労様でした。

業務隊 准陸尉 山田 茂義
十一月十七日付



業務隊 准陸尉 山本 美輝
一月十日付



業務隊 陸曹長 懸樋 秀一
一月十四日付



編集後記

明けましておめでとうございます。旧年中の「広報紙よなご」ご愛読に対し、広報室一同心より御礼申し上げます。

年末までは寒暖差の激しい天候が続きましたが、年明けからは積雪もあり、ようやく山陰の冬らしい景色になってまいりました。一月の山陰といえば、冬の味覚「松葉ガニ（ズワイガニ）」や雪化粧した「大山」、幻想的な積雪の「鳥取砂丘」など魅力的なものがたくさんあります。

地元に住んでいると近いがゆえに逆に時期を逃してしまいがちですが、やはり旬の楽しみは大切にしたいものですね。

さて、新年ということで、皆様は何か目標を立てられましたでしょうか。多忙な毎日だとは思いますが、何か一つ目標を設定し、それを一年間継続できれば、大きな自信に繋がると思います。物事を継続するのは決して簡単ではありませんが年明けという始まりのタイミングは、物事が続きやすいという統計もあるようです。私も、今年はプライベートで励んでいるスポーツの大会に3回出場し、「全大会で優勝する事」を目標に掲げました。目標を持つことで、自身の体調管理やスケジュール管理などを徹底しようとする引き締まる思いです。過度なプレッシャーにならない程度の目標を立てて、この一年を元気に過ごしていきますよ！

